

# グラントワ応援団通信

令和6年

7月18日発行

第61号

社会教育の場として、地域振興の拠点として

島根県芸術文化センター

副センター長

畑山 経弘

この4月から、副センター長を務めております畑山です。よろしくお願ひいたします。

初めての益田暮らし。住まいはグラントワから徒歩7分くらいの職員宿舎に入居できたのでとても便利で喜んでます。ところが、引っ越して来たばかりなのに、宿舍の改修工事があり、6月に2回目の引っ越しをすることになってしまいました。

同じ宿舍で別の部屋へ移るだけとはいえ、荷物が多くて引っ越しは大変で、荷物の移動だけで6時間以上かかってしまいました。料理道具、キャンプ道具、釣り道具、楽器やアンプ類、園芸用具などなど、何かと趣味が多いため荷物も増えてきます。それに加えて貧乏性でモノを捨てられず、いつか使うかも、とか思っていて何年も使っていないモノもたくさんあります。引っ越

しのためというだけではなく、そろそろ「終活」も意識して「断捨離」しなきゃな、とか考えてしまう今日この頃です。といいつつ、ネット通販って便利なものが定着し、益田に来てからもモノが増え続けているのですが(笑)

さて、私も異動の度にいろいろな仕事をしてきたのですが、前々々職では「社会教育」にも携わっていません。グラントワに着任し、「美術館」は社会教育法で「社会教育施設」として位置付けられているということを再認識することに。「劇場」も含めグラントワで実施している参加型の講座やワークショップなど、共に気づき、学ぶ、まさに社会教育の場です。

しまねの社会教育では、「集って・楽しんで・学んで・動いて・変

えていく」というプロセスを大切に、そうした学びを通して育みたい人を「未来に対して主体性を持って生きる人」として取り組んでいたことが思い起こされました。

グラントワの役割には、質の高い芸術文化の鑑賞機会を提供すること、地域とともに新しい芸術文化を創造すること、そして、石見地域の文化施設、観光施設等と連携して広域的な地域振興を図る拠点としての役割もあります。地域振興の拠点としては、単に来館者が増え、周辺の経済に好影響を与え地域が活性化するということだけではなく、芸術文化を通して、人々が「集い、つながり、学び、いきいきと活動して、地域を変えていく」そんな拠点でもあるのだと思います。

来年、グラントワは開館20周年を迎えます。生まれた頃からグラントワが身近にあった子どもたちも二十歳を迎えます。彼ら、彼女らにとって、グラントワがどんな存在となっているのか、ちょっと気になるところです。

ボランティア会、グラントワ応援団の皆さまには、グラントワが生まれる前からグラントワを見守っていただ

き、また、手をかけて、大切に育てていただきました。現在、20周年に向けて、記念となるような企画展や公演、イベント等の企画、準備を進めています。皆さまに何かとご協力いただき、お世話になることと思いますが、一緒に盛り上げていければと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。



仕事でこんな景色を見られること



最近増えたモノ(パスタ乾燥ラック)

# 「石見の美術」に関する展覧会

島根県立石見美術館

主任学芸員

角野広海

来年度、グラントワは二十周年を迎えようとしています。私自身は二〇一六年度より石見美術館の学芸員として勤務しており、江戸時代以前の日本美術を担当しています。この原稿では、私が担当した展覧会で思い出深かったものを、いくつか紹介したいと思います。

私が初めて担当した展覧会は、コレクション展の「雲谷派」（うんこくは）でした。雲谷派は、桃山時代から江戸時代に渡る約三〇〇年間、萩藩（現在の山口県萩市）を抱え絵師を務めた絵の流派です。雲谷派は、室町時代の画僧として名高い雪舟等楊の画風を継承し、主に西日本で広く活躍していました。当館は雲谷派の作品を所蔵しており、私自身はコレクション展を担当したことで、雲谷派について勉強することができました。また、他の研究者の方々に当館の雲谷派の作品をご覧いただく機会にも恵まれ、今でも研究が進展しています。

私が企画展で初めて担当したのは「石見の戦国武将―戦乱と交易の中世―」（二〇一七年）でした。この展覧会は、

当時、島根県古代文化センターで研究員として勤務されていた目次謙一さんが企画されたもので、私は石見美術館の会場担当として関わりました。平安時代末から安土桃山時代にかけての中世の石見地域は、益田地域を治めていた益田氏をはじめ、浜田地域を治めた三隅氏、周布氏、福屋氏など、様々な武将たちが並びたつ「群雄割拠」ともいうべき状況でした。私も展覧会のための調査に同行し、石見地域には古くからの歴史が息づいていることを学びました。

昨年には、企画展「山本栞谷と津和野藩の絵師たち」（二〇二三年）を担当しました。この展覧会は、江戸時代の津和野藩（現在の津和野町周辺）で活躍していた絵師たちを取り上げたものでした。私自身、これまで様々な作品調査に関わる中で、石見地域には津和野藩の絵師たちの作品が数多く残っていることを知りました。最初は「こんな絵師たちもいるのか」という小さな気付きだったので、それが積み重なり、展覧会として一つの形にしてみたいと思うようにな

りました。多くの方々のご協力を得て企画展という形に出来たこと、改めて感謝の思いで一杯です。

こうして振り返ってみると、地域の歴史や文化について地域の方々を知って頂き、地域に誇りを持って頂くことの大切さを改めて感じています。当館の作品収集方針の一つにも「石見の美術」がありますので、今後も地域のことをしっかりと勉強し、展覧会という形にしていけたらと考えています。



「グラントワ」「七夕飾り」

## あ と が き

6月30日午後、「グラントワボランティア会」の交流会が開催され、30名の関係者の皆さんが出席、懇親を深めました。また、この日、午前中にはイベントグループの方が竹を切つてこられ「七夕飾り」を大ホールの前の回廊に設置されました。

そうしたなか、令和7年度には「グラントワも開館20周年目を迎えま

## 「ガチャレンジ」

カプセル120個が即売!

呼び込みで、即人気になり、約30分で午前の部が完売。午後の部は開始前から列。やはり景品のフィギュアが目玉になっていた様でした。開催中この活動に興味を持たれたお客様がおられた様で、「次回はボランティア会のPRも含め活動ができれば」と思いました。関係者の皆さんの協力で景品も集まり無事開催できました。感謝です。

イベントグループリーダー

野村友子

す」といったご挨拶がありました。

「グラントワボランティア会」も20年目を迎えます。

人と触れ合うことは楽しいことです。「元気であいさつ、笑顔でふれあい」、これからも皆さんと活動が続けられますように。

7月5日（金）午後、「堀内誠一・絵の世界」展の内覧会があり、関係者の皆様方が多数参加され、素晴らしい展覧会で、これほどの展覧会、準備から展示、大変だったことでしよう。開期中には何度も鑑賞に伺いたいと感じたところです。

情報発信ボランティア

洗川光廣